

鈴木原子力委員会委員長代理の海外出張報告

平成24年10月24日

1. 目的

2012年10月17-18日、韓国慶州にて開催される World Green Energy Forum の原子力のセッションにて、招待講演を行う。

2. 日程

10月16日(火) 成田空港発 → 釜山空港着、慶州へ移動

17日(水) World Green Energy Forum にて講演、その後ソウルへ移動
ソウル金浦空港発 → 羽田空港着

3. 報告(概要)

- グリーン・エネルギー・フォーラムは、韓国のグリーン成長戦略に貢献する目的もあって、韓国政府や産業界が中心となって開かれる大きな国際会議であった。テーマは、再生可能エネルギー(風力、太陽光など)、スマート・グリッド、蓄電池や燃料電池、省エネルギーなど多岐にわたり、技術セッションと政策セッションに分かれて議論されていた。
- 原子力セッションでは、福島事故を踏まえての世界の原子力発電動向をテーマとしていた。座長は Prof. Soon Heung Chang(Korea Advanced Institute of Science and Technology; KAIST)で、日本の政府事故調の国際アドバイザーとしても有名な原子力安全の専門家である。私の報告は「福島事故以降の原子力政策と世界の原子力産業への影響」と題し、福島事故の教訓、日本の革新エネルギー・環境政策と原子力政策、世界の原子力発電の予測などについて発表した。
- これに対し、Dr. Moon Hee Chang (Senior Research Fellow, Korea Atomic Energy Research Institute:KAERI)、Dr. Sun Tack Hwang (Senior Research Fellow, Expert Advisor, KEPCO Nuclear Fuel) の2名がコメント。Dr. Chang は、福島事故の世界への影響が深刻になることに懸念を表し、福島事故の教訓をできるだけ共有して、安全な原子力と信頼回復に向かうべき、と発言。Dr. Hwang は、日本の脱原発政策がどのくらいの期間で達成するのか不透明であり、今後は国際社会との連携がますます重要である、との発言をされた。特に、人材確保・育成の問題や研究開発についての懸念が示された。
- その後のフロアとの質疑応答でも、日本の政策に対する質問が続き、日本の政策が韓国はもちろん、世界の原子力政策に大きな影響を与えることを認識すべき、などのコメントが寄せられた。
- Dr. Heung とは個別に昼食で意見交換を行った。Dr. Heung は日本の事情に精通しており、韓国も日本の政策に高い関心を持っていると指摘していた。